



越後守御印  
大般手文書  
文もとや貢助

管物小官物事

大般手文書一回用

文もとや貢助

一 唐門うちく候おもうへりあひえ  
並腰も下有之其上玉極多有し、益  
近來引多事高枝松木廣葉木  
四札附根根かけ深は仕候合室主不  
格列下典を云々松車御用に書ひて  
付ふを万一かどま典也思石元  
合意せよノ何附を書す事も附處  
附處で經に書く事もあ無事上にて  
石庵門うちく候おもうへりあひえ  
書候度不代根返て仕候附根根  
書候度不代根返て仕候附根根

一 帝不拘くは様等清仕等又はお望  
あひいふひ度りもあひ候封て年よ  
る凡く一筆 さしけ十筆

水牛一个 等  
牛之身一筆 一つ三ヶ

瓦少く一筆 おみ工く為  
化粧石を  
絵入あれく なぞに入拂は

革牛錢金一筆 おも入き口肩  
きんちやくす おも入き口肩  
銀八斗五升 おも入き口肩  
米八斗五升 一 番付瓦つらへ  
一 番付瓦つらへ  
三味縁を立

右外小方あらじ取ねば極多所余等  
袋不教御度上等て事も多事變久  
附用向きぬ筋付手足の筋付手足の筋付手足